

【第3回ケースマネジメント研修】

(4月25-26日：チェンライ、4月29-30日：バンコク (写真下))



タイでは、人身取引被害者の発見、通報、救助、保護、加害者訴追、社会復帰までの一連のプロセスを多分野協働チーム（MDT）アプローチで行っています。救助の時は警察が、海外者訴追の時は検事が中心となって被害者の支援にあたります。各プロセスで関わってくる組織が多岐に渡るため、ケースの最初から最後まで一貫してケースを監督し、要所所で関連機関との連携を調整し被害者が無事に社会復帰できるような支援をすることがケースマネージャーに求められます。タイにおいては、MDTメンバーの中でも、被害者と1番長い時間を共にするシェルターのソーシャルワーカーや、社会開発人間の安全保障事務所のソーシャルワーカーをケースマネージャーとして育成するのが相応しいと考え、過去3年間ケースマネージャー養成研修(CM研修)を行ってきました。1回目のCM研修は人身取引対策法、人身取引被害者を保護するためのプロセス、MDTの役割、ケースマネジメント会議の開催方法等の内容で行い、2回目のCM研修は「タイで保護された外国人被害者」の救出から社会復帰までのプロセスをみながら、ソーシャルワーカーがどのように被害者をシェルターに保護するのか、何時間以内にどのような関係機関にどのような書類を提出するのか、被害者が訴追や賠償金を請求する場合、誰にしなければならないのか等を、グループワー

クにて洗い出しました。

3回目となる今回の研修は、海外で人身取引被害にあいタイに戻ってきた「タイ人帰国被害者」の救出から保護までのプロセス、ケースマネージャーとしてどう関わるべきかに焦点を当てた研修を行いました。3回目のCM研修もバンコクとチェンライで行いました。チェンライの研修ではチェンライ県とパヤオ県のシェルタースタッフ、郡レベルMDTとして活躍している先生、看護師、NGOスタッフ、被害者ピアサポートメンバー等、合計32名が参加しました。バンコクではシェルタースタッフ等をはじめとする政府のソーシャルワーカーとNGOスタッフ29名が参加しました。



(写真左) 熱心な参加者の様子

研修の中身は、①初めて被害者と面会するときの態度や話し方、権利の通知の仕方、②人身取引被害者のトラウマや2次被害の実態、③タイに自らの力で帰ってきて、まだ被害者として認定されていない場合の手続き、④加害者訴追及び賠償金請

求を行うにあたってどういう支援をするべきか、⑤人身取引被害者支援基金の概要と申請方法についてでした。①と②に関しては、被害者ピアサポートグループ Live Our Lives (LOL) のメンバーと実際にその任務に就いているソーシャルワーカーが講師として立ち、③と④に関しては検事をコメンテーターにしてグループワークを行い、⑤については政府の基金担当者及び、実際にその基金を使用して活動を行った政府関係者や LOL のメンバーが経験を共有してくれました。

またチェンライでの研修の1日目の夜は、被害者ピアサポートグループ LOL のメンバーとパヤオの被害者の女性たち及び彼女たちをサポートする YMCA バンコク・パヤオセンターのスタッフ約10名で LOL の活動ビデオを見ました。その後 LOL 事務局長のニーさんや LOL の主要メンバーが、人身取引被害に遭い誰にも手を差し伸べてもらえず、誰にも相談できず孤独で狂いそうだった時に LOL の仲間と出会っていかに救われたかを話しました。

「傷は消えないけど、癒すことはできる。そしていつまでも被害者ではなく、今後自分のような被害者を増やさないため学校をはじめとする様々なところで啓発キャンペーンをしている。自分の辛い経験を話すことで、助かる人がいることがとても嬉しい。」とパヤオの被害者たちに LOL のミーティングに1度参加するよう誘っていました。

【被害者ピアサポートグループ Live our Lives (LOL) メンバーのリーダーシップ研修】

LOL は損保ジャパン記念財団の助成金を得てリーダーシップ研修を行っています。このリーダーシップ研修の目的は、メンバー自身が人身取引の「被害者」として生きていくのではなく、自分たちが遭遇した不幸な体験をもとに同じ境遇に遭った仲間たちと連帯し、人身取引被害者を一人でも減らすために様々な活動を行えるように力をつけていくことです。同研修では LOL が今後の

政府の人身取引対策政策にも自分たちの視点を取り入れてもらうためには何が必要か、国際会議で自分の意見を効果的に発信するにはどうしたらいいかなどの研修を行っています。4月19日-21日にかけて2回目のリーダーシップ研修が開催され、百生と石黒が1日目だけ参加してきました。2回目のリーダーシップ研修の主な内容は、4月6日-8日までに開催されていた ASEAN People Forum 参加の報告と、LOL の今後の方向性についてでした。また百生がニューヨークで開催された国連婦人地位向上委員会における人身取引に対する見解について発表をしました。また国連婦人地位向上委員会のサイドイベントとして、欧米の人身取引被害者によるパネルの内容、スウェーデン政府や民間企業の人身取引撲滅のための活動の紹介をし、LOL メンバーに大変興味をもって聞いてもらえました。



(写真左) 研修の様子

我々が参加した研修には LOL のリーダー格のメンバーが7人参加していました。個々の発信能力には差がありますが、1人ひとり、LOL の活動に大変意義を感じており、人の役に立てるのが嬉しいと研修中もノートをとりながら熱心に参加していました。

同通信はプロジェクトの進捗状況及び関連情報をお知らせする目的であり JICA やカウンターパートの見解を示すものではありません。禁転載。